

## 第2学年1組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

### 1 主題名及び教材名

主題名「友達を思って」  
 B10【友情、信頼】友達と仲よくし、助け合うこと。  
 教材名「ともだちやもんな、ぼくら」(東京書籍)

### 2 主題設定の理由

内容項目の解釈
<p>「友情、信頼」の友情とは、友達間の情愛のことであり、信頼とは、信じて頼りにすることである。友達とは家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係はともに学んだり、遊んだりすることを通して、互いに影響しあって構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような経験や共通の興味や関心を有することから、豊かに生きる上での大切な存在である。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるようにすることが大切である。また、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることや、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りできるようになることが求められる。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合っただけよかったことを考えさせながら、友達と仲よくしようとする態度を育てていくようにする必要がある。</p> <p>B10「友情、信頼」については、第1学年において、教材「二わのことり」を用いて、相手を思いやり友達の大切にすることについて学習してきた。これを受けて本主題では、身近にいる友達と、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さについて学習していく。このことは、中学年での「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」、高学年での「友達と互いに信頼し、学び合っただけ友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」の学習へと発展していく。</p>

児童の実態	教材の分析
<p>本学級の子どもたちは、友達と関わるのが好きで、休み時間には友達と仲よく遊んでいる。しかし幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることができないことも多い。</p> <p>そこで、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるができるようになるこの期に本主題を取り上げる。</p> <p>このことは、友情、信頼の価値を感得させるとともに、自己の生き方を見つめる子どもを育てる上からも意義深い。</p>	<p>本教材「ともだちやもんな、ぼくら」は、主人公の「ぼく」とマナブが一人怒られているヒデトシを悩んだ末に助けに行き、友達を思うことの大切さに気付くという話である。3人は近所のかみなりじいさんの家の木で遊んでいたところを見つかり逃げるが、ヒデトシだけ転んでしまい、捕まってしまう。ヒデトシを助けに行くか「ぼく」とマナブは大いに悩んだ末、ヒデトシを助けに行く決心をする。すると、かみなりじいさんから怒られずに、ヒデトシから帰ってきてくれてうれしかったと言われ、友達の大切さに改めて気付く。友達を助けに行くか悩む心の葛藤をとらえさせるとともに、友達を大切に思うことの価値をとらえさせるのに適した教材である。</p>

### 3 本時のねらい

<p>友達のよさとは、仲よくするだけでなく、困っているときは心配し、励まし合ったり助け合ったりすることだということが分かり、友達と仲よくし互いに助け合っただけいいという態度を育てる。</p>
---

### 4 本時学習の工夫点

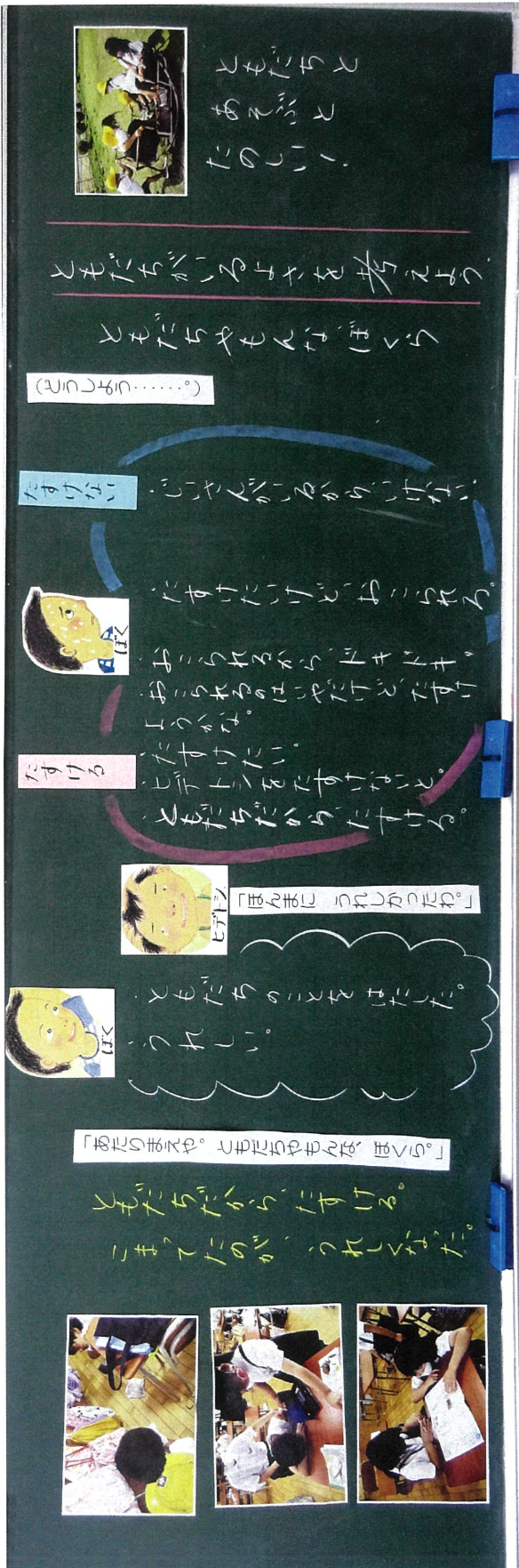
【つかむ段階】	【見出す段階】	【見つめる段階】
<p>事前アンケートの結果をもとに、友達がいるよさを確かめ、本時学習のめあてをつかませる。</p>	<p>「広げる問い」で、友達を助けに行くかどうか葛藤する「ぼく」の気持ちを考えさせた後、「深める問い①」で、友達を助けたときの「ぼく」の気持ちを考えさせ、友達と助け合うことの価値についてせまり、「深める問い②」で、友達のよさとは、仲よく遊ぶだけでなく、友達が困っているときも一緒にいたり、助けたりすることで、心強くなることだということに気付かせ、友情の価値について考えを深めさせる。</p>	<p>友達と仲よくし、助け合うことの大切さについて、自分との関わりで考えさせ、これまでの自分を振り返らせ、これからの自分の展望をもたせる。</p>

### 5 計画

事前 (課外)	道徳科 (本時)	事後 (課外)
<p>アンケートにより、学校や学校以外での友達との関わりについての経験を想起させる。</p>	<p>教材「ともだちやもんな、ぼくら」を通して、友情について学習させる。</p>	<p>日常生活において、友達と仲よくしたり助け合っただけいいことを称賛する。</p>

6 展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 事前アンケートの結果をもとに、友達がいてよかったと思ったことを想起し、学習のめあてについて話し合う。 (友達がいてよかった経験)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みに、みんなで鬼ごっこをして楽しかった。</li> <li>・生活科で、一緒に町探検に行ったことが楽しかった。</li> </ul> </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>一緒にいたり、仲よく遊んだりすることだけが友達のよさ？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>友達がいるよさを考えよう。</p> </div>	<p>○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートをもとに、友達との関わりを想起させ、友達がいてよかったときはどんなときか確認し、価値の方向性をつかませる。</p> <p>○ 本時学習のめあてをつかませるために、「一緒にいると楽しいこと」だけが友達がいるよさなのか問う。</p>
見出す	<p>2 教材「ともだちやもんな、ぼくら」をもとに、友情についての価値理解を深める。</p> <p>(1) 教材を読み、場面の状況を把握し、公園に着き「どうしよう。」と悩んでいる「ぼく」の気持ちを話し合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ヒデトシを助けるか、助けないか悩んでいる「ぼく」は、どんな気持ちだったのでしょうか。 【広げる問い】</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">助ける(赤)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわいけど、助けたい。</li> <li>・ヒデトシが心配だ。</li> <li>・やっぱり行こう。</li> <li>・友達だから助けよう。</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-left: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">助けない(青)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こわい。</li> <li>・怒られたくない。</li> <li>・どうしよう。</li> <li>・助けたいけどこわい。</li> </ul> </div> </div> </div> <p>(2) 「ほんまにうれしかったわ。」とヒデトシに言われたときの「ぼく」の気持ちを考え、友情についての価値理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ヒデトシに「ほんまにうれしかったわ。」と言われて、「ぼく」はどんなことを思ったのでしょうか。 【深める問い①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助けに行ってよかった。</li> <li>・ヒデトシが笑顔になってよかった。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「あたりまえや。ともだちやもんな、ぼくら。」と「ぼく」は言っていますが、何が当たり前なのでしょう。 【深める問い②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が困っていたら助ける。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>困っているときも、助け合うのが友達</p> </div>	<p>【広げる問い】</p> <p>○ 助けに行くかどうか葛藤する「ぼく」の気持ちをとらえさせるために、公園で悩む「ぼく」の気持ちを共感的に問い、ハート図で表現させる。</p> <p>【深める問い①】</p> <p>○ 友情の価値にせまるために、友達を助けたときの「ぼく」の気持ちを分析的に問い、友達を助けるとどのような気持ちになるか話し合わせる。</p> <p>【深める問い②】</p> <p>○ 友情の価値をとらえさせるために、友達とは何をするのが当たり前なのか分析的に問い、友達のよさは仲よく遊ぶだけでなく、友達が困っているときも一緒にいたり、助けたりすることで、心強くなることだということに気付かせる。</p>
見つける	<p>3 本時で明らかにした友情の価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強のやり方が分からなくて困っている友達がいたときは、やり方を教えてあげたい。</li> <li>・泣いている友達がいたときは、「どうしたの。」と話を聞いてあげたい。</li> <li>・けがをした友達がいたときは、一緒に保健室に行きあげたい。</li> </ul>	<p>○ 自分との関わりで考えを深め、実践意欲をもたせるために、学校生活の中で友達と助け合っている場面の写真を提示する。</p>



主な発問

○つかむ

友達がいてよかったことは、どんなことですか。

「仲よく遊ぶことだけが、友達がいてよかったなと思うことでしょうか。」

友達がいるよさを考えよう。

○見出す

(ぶんごもい……?) と考えている「ぼく」は、何と何で悩んでいるのでしょうか。

【広げる問い】

ヒデトシを助けるか、助けないか悩んでいる「ぼく」は、どんな気持ちだったのでしょうか。

「助ける」気持ちを赤で、「助けない」気持ちを青で、ハートを使って表現させる。その後、ペア交流をさせる。

【深める問い①】

ヒデトシに「ほんまにうれしかったわ。」と言われて、「ぼく」はどんなことを思ったのでしょうか。

全体で、考えたことを話し合わせる。

【深める問い②】

「あたりまえや。ともだちやもんな, ぼくら。」と「ぼく」は言っていますが、何が当たり前なのでしょう。

困っているときも、助け合うのが友達

○見つめる

今日の学習で、分かったことや、思ったことを書きましよう。

○成果と課題・改善策（◎成果，●課題，→改善策）

**【つかむ段階】**

◎事前アンケートをもとに、友達との関わりを確かめたことで、自分事としてめあてをつかませることができた。

**【見出す段階】**

〈広げる問い〉

◎「広げる問い」でハート図を用いたことで、多様な意見を引き出すことができた。また、「助ける」「助けられない」の選択肢を子どもから引き出したことで、子どもが思考しやすくなった。

●主人公の「助けられない」という弱さに十分共感させることができず、「助ける」の意見に偏ってしまった。  
→公園で友達を助けに行くか悩む場面で、かみなりじいさんの怖さなどに共感させる補助発問をして子どもの気持ちを揺さぶり、「助けられない」意見を引き出すことができるようにする。

〈深める問い〉

◎「深める問い」で、①ではうれしかったと言われたときの気持ち、②では「友達だから当たり前」の意味と、段階的に問うことで、子どもの思考の流れがスムーズになった。

●「深める問い①」で、「うれしかったわ。」と言われたときの気持ちを十分に深めることができず、友情についての価値をしっかりとおさえることができなかった。

→「仲よく遊ぶだけが友達でしょうか。」と、めあてを振り返らせて本時学習での友情についての価値を明らかにすることで、価値理解を深めることができるようにする。

〈表現活動〉

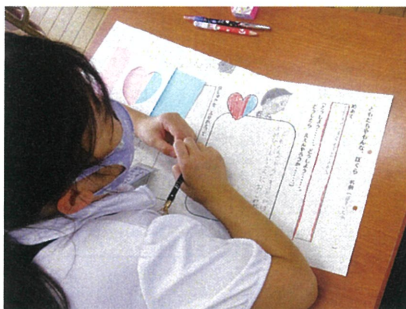
◎ハート図を使って自分の気持ちを可視化させたことで、自分の考えを明確にし、友達のと比較させることができた。

**【見つめる段階】**

◎子どもの生活場面を写真で取り上げ、自己を見つめさせたことで、今後の実践意欲につなげることができた。

○表現活動，対話の様子

【考えをノートに書く】



【ハート図を使ったペア交流】

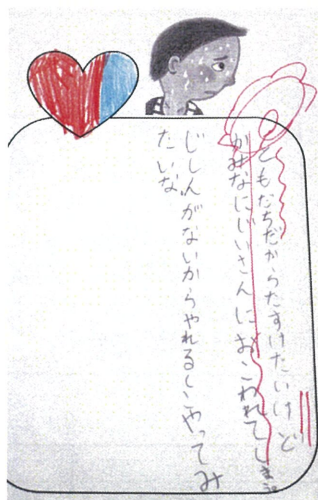
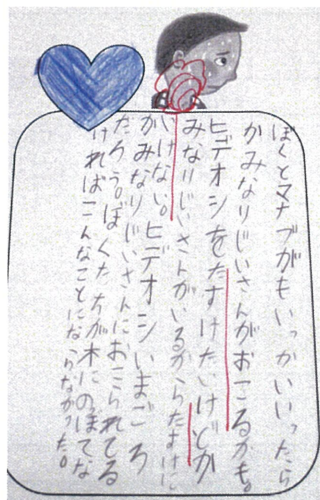


【全体交流】



○子どものノートや発言

【広げる】



【深める】

ヒデトシを助けられた。友達のことを思って助けに行ってよかった。

友達であることを果たせた。

【価値理解～見つめる】

